家庭科
家庭基礎
『世界の子どもの貧困と食糧問題』

【おにぎりの写真を投稿し、社会貢献活動に取り組む】

調理実習のおにぎりをChromebookで撮影している様子

活用場面

一斉学習：教師による教材の提示
個別学習：表現・制作
協働学習：学校の壁を越えた学習

課題として提出した生徒の投稿写真

活用した機器等
Chromebook
プロジェクター

活用したアプリ等
Google Classroom
カメラ機能

学習のねらい

保育分野「子どもの貧困」や食生活分野「食糧問題」の学習から明らかになった、「世界の食の不均衡」という大きな社会課題の解決に向けて、自分にできることを主体的に考え、工夫し、行動する。
SDGsの17の目標のうち「貧困をなくそう」（目標1）、「飢餓をゼロに」（目標2）、「質の高い教育をみんなに」（目標4）、「人や国の不平等をなくそう」（目標10）、「パートナーシップで目標を達成しよう」（目標17）の5つの達成に貢献することを通して、持続可能な社会をつくるためには、1人ひとりの意識と行動が重要であること、また共通の想いをもつ人たちがつながり、協力し合うことによって、大きな力を発揮することができることを認識する。

学習の流れ

導入
日本は、食料自給率が極めて低いにもかかわらず食品ロスが多いこと、また「2030年の『飢餓をゼロに』」というSDGsの目標は、コロナ禍という未曽有の危機によって達成が懸念されていることを知る。
特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalの「おにぎりアクション」※に参画することで、アフリカやアジアの子どもたちに給食を届けることができることを知る。
和食の調理実習時に各自がおにぎりを握り、Chromebookで写真撮影する。

展開
世界の子どもたちへのメッセージを考え、実習プリントに下書きをする。
「課題」に付けた「おにぎりアクション」のURLをタップし、投稿サイトを立ち上げ、メッセージ入力と写真の挿入を行う。「おにぎりアクション」の投稿サイトに写真とメッセージを投稿する。
自分の写真とメッセージが掲載された投稿サイトの画面をスクリーンショットで記録し、課題として提出する。

まとめ
地図上に反映された自分や仲間の投稿写真やメッセージを見て、学年全員で世界の子どもたちへ1,000食以上の給食を届けることができたことを確認する。学校以外の人々（日本や海外）からの投稿内容も閲覧し、「おにぎりアクション」を通じて日本の主食の米問題を考えたり、日本の食文化を世界に発信したりするなど、個人が誰でも参加できる身近なアクション（社会貢献活動）があることに気付く。

ココでICTを活用！

Chromebookが1人に1 台あることで、全員が一斉に調理実習時におにぎりの写真を撮影することができ、また、メッセージの推敲にも集中して取り組むことができた。
Classroomを使うことで、課題の配付、提出・回収など教員と1人ひとりの生徒とのやりとりが容易となり、効率的に授業を進めることができた。質問のある生徒への個別指導も行いやすい。
教室で全員がインターネットにつながったChromebookを使用することができたので、「おにぎりアクション」投稿サイトの地図を個々の生徒が自由に閲覧する時間を設けることができた。

※「おにぎり」の写真を特設サイトに投稿すると、1枚の写真投稿につき給食5食分に相当する寄付(100円)を協賛企業が提供し、アフリカやアジアの子どもたちに給食が届く仕組み(https://onigiri-action.com/)(令和3年12月現在)

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

生徒が本来持っている「何かしたい」という気持ちを出せるように、また、「社会貢献を気軽に楽しく」経験し、家庭科で学んだことを社会や人生とつなげて行動するきっかけにして欲しいと考えてこの授業を計画した。1人1台端末環境が整ったことで、生徒1人ひとりが伝えたいことや自分の考えをまとめる時間を持つことができた。調理実習で自分が握るおにぎりにも、投稿するメッセージにも、世界の子どもたちへの思いを込めることかできた。
海外からの投稿を読み、おにぎりが外国でも知られていることを知り、自ら英語で投稿することに挑戦した生徒もいる。ICT機器を利用することで、空間的・時間的制約が緩和され、学校の壁を越えて生徒の学びが広がり、今まではできなかった学習活動も可能になるのではと感じている。
投稿する際、アクセスが集中すると自分の投稿写真が地図上に反映されるまでに時間がかかるクラスがあり、授業内に見ることができないということがあった。機器の操作に時間のかかる生徒もいたので、操作方法の提示のマニュアルを改善したい。